



(2017年、防災教育推進協会調べ)

「一日は「防災の日」でしたね。今から百年近く前の一九二三年に、東京などに大きな被害をもたらした「関東大震災」が起きたのです。今年も各地で大雨による土砂災害や洪水などが起きています。いざというときに安全な場所に逃げられるように、学校でも行われる避難訓練。どんな訓練をするべきか、この機会に考えてみませんか。

くらしの中から 考える

避難訓練

「釜石の奇跡」を知つてい かまいしきせき

さなども学んでいたという。
災害や防災の知識を問う
「ジュニア防災検定」を主催
する防災教育推進協会（東
京）が一七年、全国の教育委
員会に聞いた調査では、学校
で防災教育を行う頻度は各学
期に一回程度が $63\cdot5\%$ と最
多だった。内容は避難訓練が
 $96\cdot7\%$ を占め、防災講話
(58・0%)、防災マップ作
り(40・1%)などが続い

さなども学んでいたといつ。
災害や防災の知識を問う
「ユニア方災金定一主催

度も全員無事の奇跡◆
同協会事務局長の浜口和久さん(五三)は「校内放送で地震を知らせて、決められた通りに机の下に入り、集合場所の校庭に向かうといつ形式的な避難訓練を行っている学校も少なくない」と指摘。「なぜこの行動をするのか学ぶことも大切。火災や水害など災害の種類に応じた避難方法を確認したり、事前に子どもたちに知らせずに抜き打ちで実験したりと、より実戦的な訓練が必要だ」と訴える。

(西)だ。「地震などの災害の実態に近い、根拠を持つた避難訓練」を提唱。「学校や家庭にいる時、想定される最大クラスの地震が起きたら、体や頭を守る姿勢がとれるか、棚から物が落ちてこないかを確認し、棚を固定するなど事前にできる対策をとる。その後で、発生時にとるべき行動を考えて訓練するべきだ。自分で判断する力がつけばいい」と話す。

ぶん
聞 (東京新聞) 生活
ぶ
部「学ぶ」係=ファク
ス052(222)5284、メ
ール seikatu@chu
nichi.co.jp=へ。QRコードか
ら、ワークシート兼応募用紙も
ダウンロードできます。16日締
め切り。

基本と臨機応変さ必要

(五六)は「基本の繰り返しも必要だ」と考える。被災地では「揺れたと思ったら、家族の中で一番早く子どもたちがたつに潜り込んだ」「真夜中で一一番早く子どもたちがたつに潜り込んだ」と被害想定を調べることから始めるよう」と呼び掛けるのは、防災教育を取り組むNPO法人「減災教育普及協会」(横)

意見送ってください

みんなの学校ではどんな避難訓練をしていますか。備えについての意見を見送ってください。
紙面で紹介したお子さんの中から抽選で図書カードをプレゼント。
応募は〒460 8511 中日新聞

子ども自身が考え実践

「地震で子どもの寝室にかけ込んだら、子どもたちは枕と布団で頭を保護していた」という話を多く聞いたという。「基本で覚える」とも、「身体を体で覚える」とも、臨機応変に考える力を身に付けることも、両方が大切」と力を込めることから。